

学部・学科	経済学部経済学科
開講期	2022年度前期、2022年度後期
科目名	エコノメトリクス
副題	実証例を中心に因果関係の思考を学ぶ
科目区分	経済学科専門教育科目
担当教員	鄭 宇景
開講年次	3年
単位数	4単位

重点コンピテンシー(表現力)	-	重点コンピテンシー(人との交流/協業)	-
重点コンピテンシー(主体性/積極性)	O	重点コンピテンシー(職業観/社会への関心)	O
重点コンピテンシー(論理的思考力)	O	重点コンピテンシー(リーダーシップ)	-

講義概要	本講義では、因果関係を中心とするエコノメトリクス（計量経済学）の思考を学びます。前期では、様々な実証分析の例を中心に、エコノメトリクスと因果推論の理解度を上げていきます。後期では、EBPM(証拠に基づく政策立案)やナッジなど、国の政策におけるエコノメトリクスの応用例を中心に、エコノメトリクスを用いた分析レポートの書き方を学びます。エコノメトリクスはデータを用いて因果関係を導き出す手段の学問であって、統計学や数学の前提知識が無くてもそのエッセンスが十分理解できます。エコノメトリクスを通じて論理的かつ批判的な思考力を身に付けましょう。
学生の到達目標	① 現実の因果関係を究明する上で、計量経済学の思考がどのように働くかを理解できるようになることを目指します。 ② 公共政策を計量経済学の観点から分析できるようになることを目指します。
講義心得	前提知識ゼロから学ぶ講義ですが、普段のニュースや新聞記事の主張に対して、その根拠に疑問を抱く姿勢が望ましいです。
評価方法	小テスト 20%; レポート課題 40%; 期末試験 40%
教科書	特定の教科書は指定せず、講義ノートを配布します。
参考文献	唐渡広志『44の例題で学ぶ計量経済学』オーム社, 2013. 中室牧子, 津川友介『「原因と結果」の経済学：データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社, 2017. 山根承子, 黒川博文, 佐々木周作, 高阪勇毅『今日から使える行動経済学』ナツメ社, 2019. 内閣府『令和元年度年次経済財政報告』内閣府ホームページ, 2019. 厚生労働省『令和2年版厚生労働白書』日経印刷, 2020. 小倉将信『EBPM（エビデンス（証拠・根拠）に基づく政策立案）とは何か—令和の新たな政策形成』中央公論事業出版, 2020.
授業時間外の取り組み	講義スライドを一読し、小テストを解くことで復習を行ってください。

講義計画	
第1回	データとグラフ / グラフで見るコロナ感染症
第2回	相関関係と因果関係 / 自然実験
第3回	自然実験の例：男・女医の能力差 / 受動喫煙の弊害 / 教育年数と収入
第4回	回帰分析の入門
第5回	回帰分析の例：土地価格の決定要因 / 経済の生産関数
第6回	回帰分析における様々な罣
第7回	操作変数法の入門
第8回	操作変数法の例：テレビ視聴と偏差値 / 中絶と犯罪率
第9回	差の差分分析の入門
第10回	差の差分分析の例：認可保育園数と母親の就業率 / 最低賃金と雇用
第11回	マクロ経済変数と時系列データ
第12回	確率の話：不確実性とリスク / 確率分布とは / 仮説検定とは
第13回	計量経済学の歴史と展望
第14回	計量経済学と人工知能

第15回	政策提言の難しさ：人の命の価格 / 前期のまとめ
第16回	前期の復習 / EBPMとは
第17回	Rstudioの導入 / データで見る群馬県
第18回	日本の公表統計データ
第19回	データ分析実習：地域経済分析システム(RESAS)で見る群馬県
第20回	経済分析の書き方 / 経済白書とは
第21回	経済分析例：縮小する地域社会 / 企業・求人・求職の動向
第22回	回帰分析結果の解釈
第23回	回帰分析実習：群馬県の宅地価格決定要因 / 働きがいの分析
第24回	回帰分析を用いたレポートの書き方
第25回	行動経済学と因果推論 / ナッジとは
第26回	ナッジの政策応用例：ナッジユニットの活躍（環境省・経産省）
第27回	人工知能の計量経済学と政策評価
第28回	幸せの経済学 / 幸せを測る計量経済学的手法
第29回	計量経済学は万能ではない / EBPMの限界
第30回	講義の最終まとめ：人生に役立つ計量経済学